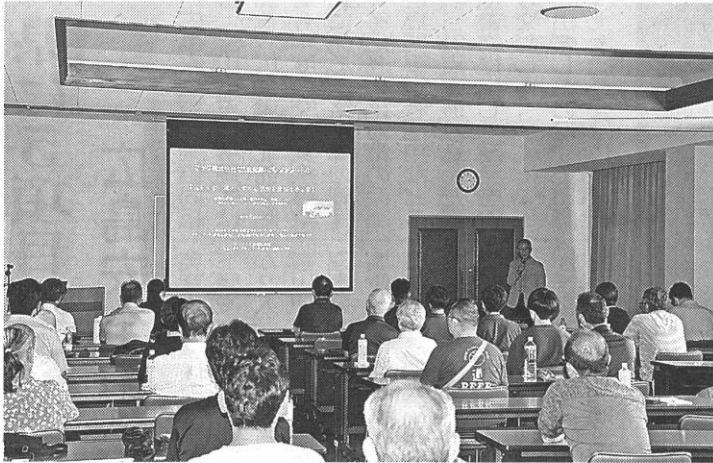


あいさつする河内支部長



日本技術士会山口県支部 年次大会・特別講演会開催 感動させる技術を提供して



特別講演会のもよう

日本技術士会中国本部山口県支部(河内義文支部長)は27日、宇部市の常盤工業会館で「2024年度支部年次大会および特別講演会」を開催した。

はじめに河内支部長が「我々の技術士などの資格は、取得がゴールではなくそこから始まる。スキルを磨き新しいことに目を向け、いろんな方向性を見つけて研究するなど、立ち止まっていたらそっぽを向かれる。発注

者を感じさせるような技術を提供しなければならぬ。会員なら、いろいろな機会ときっかけがある。仲間をつくり、隣を見ながら時に羨ましく思い、時にはそれを糧に頑張ろうと思うことが大事」と挨拶した。

その後、23年度の事業報告や24年度の事業計画などが説明された。今年度も、公益的事業の促進・地域社会の発展に寄与、知名度の向上及び技術士の活用促進、資質向上と活性化、会員拡大を基本施策に据える。山口大学などの教授らを招いてテクノサロンの開催や小学生を対象にポンボ船をつくる理科教室、自然災害伝承碑探訪ツアー、本部などが行うイベントのサテライト会場開設、徳山高専と宇部高専への非常勤講師派遣などを行う。

年次大会終了後には、元マツダのエンジニアで山口東京理科大学の貴島孝雄教授による「感性価値重視のものづくり」と題した特別講演会が行われた。貴島教授は「新入社員教育の時、社長の言葉として、『ムダを省いて贅沢を』と『10杯のコーヒーよりも1杯の酒』があり、むだをせず良いものを買う、上辺だけの話よりも腹を割って1度話さないという教えだった。ロードスターの開発にもその思いが入っている。マツダは人を大切に考え、人間中心思想を重視する企業」と述べ、感性価値の具現化や感性工学について、ロードスターの誕生秘話、感性価値を具現化した3代目ロードスターの開発ストーリー、感性コンセプトの人馬一体などについて解説した。